

(4) 教育に対する価値観と悩み

①教育問題に対する考え方

(8) あなたは、次のような意見や考え方について、どうお考えですか。

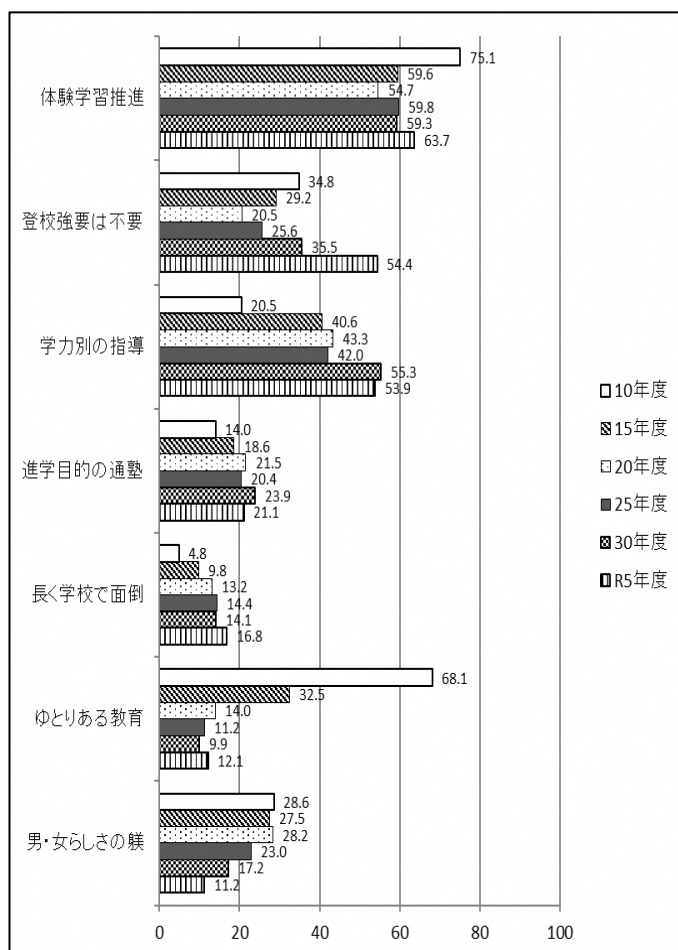
(とてもそう思う、そう思う、どちらともいえない、思わない、まったく思わないから選択)

1. 小学校や中学校でも学力別の指導を行った方がよい
2. 子どもはできるだけ長い時間学校で面倒をみた方がよい
3. 学校では、もっとゆとりのある教育をすべきだ
4. 学校では、もっと体験学習（自然体験や奉仕活動等）を取り入れた方がよい
5. 学校に行きたがらない子どもに無理に行かせる必要はない
6. 男の子は男らしく、女の子は女らしくしつけた方がよい
7. よい学校に入るためには学習塾へ行かせるのが当然だ

※グラフは、「とてもそう思う」「そう思う」を合わせたもの

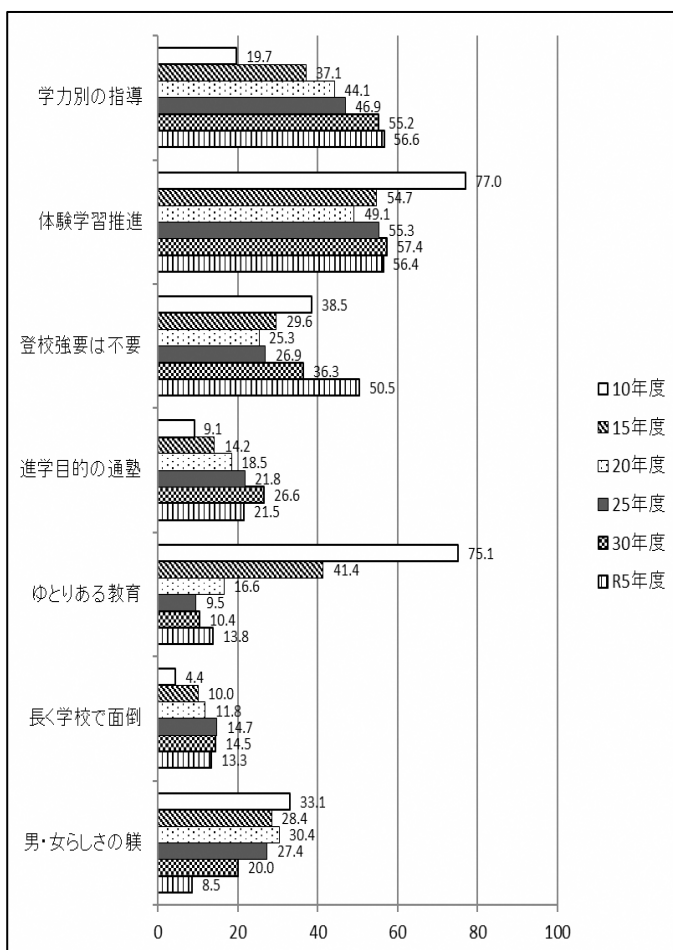
(8) 次のことをどう思うか（小学生保護者）

〈とてもそう思う＋そう思う〉



(8) 次のことをどう思うか（中学生保護者）

〈とてもそう思う＋そう思う〉



<令和5年度の結果>

小学生の保護者では「学校では、もっと体験学習（自然体験や奉仕活動等）を取り入れた方がよい」と考えている割合が最も高かった。（*）中学生の保護者では「小学校や中学校でも学力別の指導を行った方がよい」「学校では、もっと体験学習（自然体験や奉仕活動等）を取り入れた方がよい」と考えている割合が高かった。（*）

＜平成１０年度から令和５年度を通しての変化＞

「学校では、もっとゆとりのある教育をすべきだ」や「男の子は男らしく、女の子は女らしくしつけた方がよい」は平成１０年度の調査から減少傾向にある。^{（＊）}

「登校強要は不要」は、小学生、中学生の保護者ともに、平成２０年度以降大幅に増加している。

（＊）



②公教育に関する話題

(13) あなたは、公教育の中で次のようなことを進める必要性があると思いますか。
(とてもそう思う、そう思う、どちらともいえない、思わない、まったく思わないから選択)

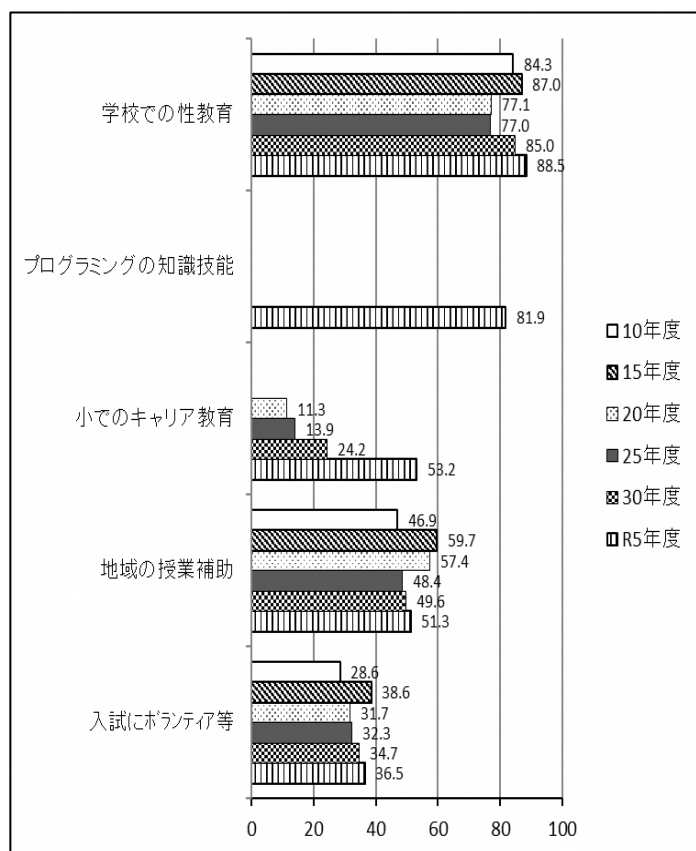
1. 学校における性教育
2. 小学校からのキャリア教育
3. ボランティア活動等の校外体験を入試の判定材料に入れること
4. 地域の人々が学校の授業の手伝いをする事
5. プログラミングについての知識や技能を身に付けること

※グラフは、「とても思う」「思う」を合わせたもの

※「中高一貫校設置」を削除。「プログラミングについての知識や技能を身に付けること」を追加

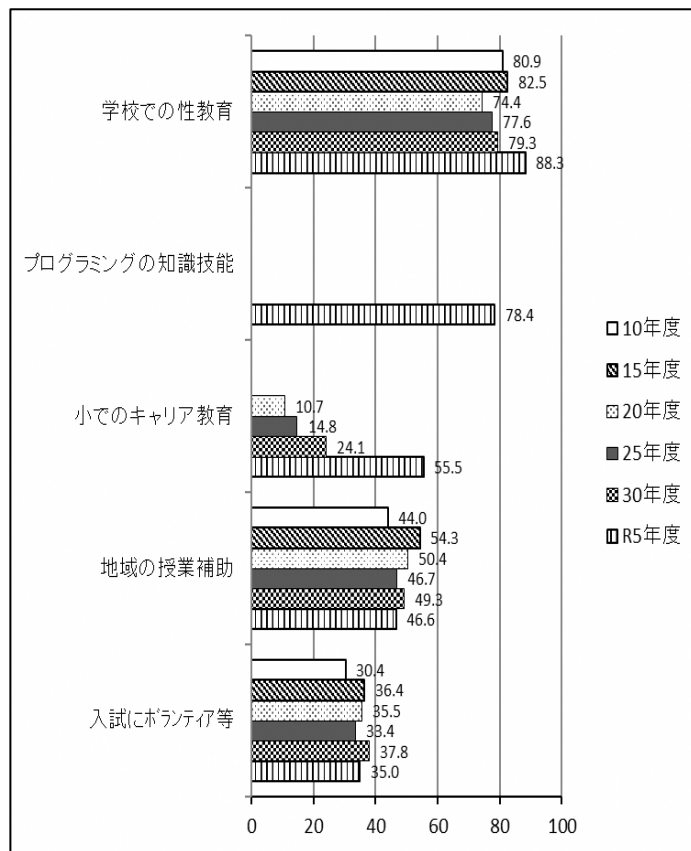
(13) 公教育で必要性があるか (小学生保護者)

〈とても思う+思う〉



(13) 公教育で必要性があるか (中学生保護者)

〈とても思う+思う〉



<令和5年度の結果>

小学生、中学生の保護者ともに、「学校における性教育」(*)「プログラミングについての知識や技能を身に付けること」の必要性を感じている割合が高かった。

<平成10年度から令和5年度を通しての変化>

小学生、中学生の保護者ともに、「小学校からのキャリア教育」においては増加傾向にあり、平成30年度から3割程度増加した。(*)

③子どもの教育に関する考え方と悩み

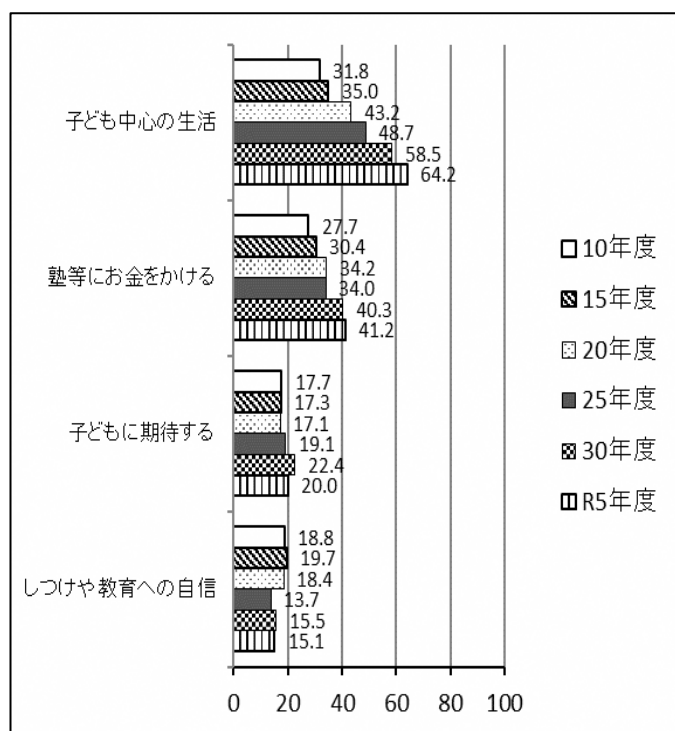
- (1) あなたご自身のことについて、おたずねします。
(とてもそうだ、そうだ、どちらともいえない、そうではない、まったくそうではないから選択)

1. 子どものしつけや教育について自信がある
2. 子どもの塾や習いごとにより無理をしても、お金をかける
3. 子ども中心の毎日を送っている
4. 自分のできなかったことを子どもに成し遂げてもらいたい

※グラフは、「とてもそうだ」「そうだ」を合わせたもの

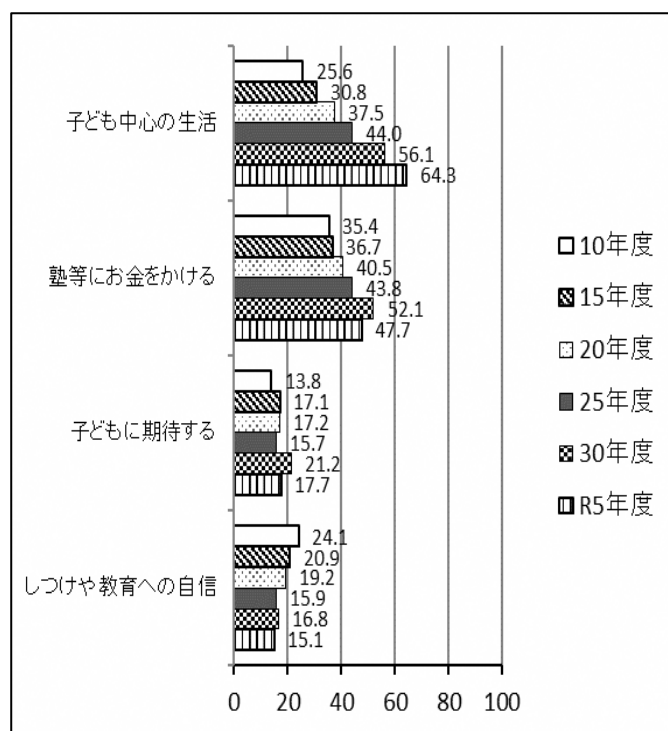
(1) 自分自身のこと（小学生保護者）

〈とてもそうだ+そうだ〉



(1) 自分自身のこと（中学生保護者）

〈とてもそうだ+そうだ〉



<令和5年度の結果>

小学生、中学生の保護者ともに、「子ども中心の毎日を送っている」の回答が6割を大きく超えている。(*)

<平成10年度から令和5年度を通しての変化>

小学生、中学生の保護者ともに、「子ども中心の毎日を送っている」の割合は、調査ごとに増加傾向である。

一方で、「自分のできなかったことを子どもに成し遂げてもらいたい」については、平成10年度の調査開始から大きな変化はない。

「子どものしつけや教育について自信がある」については小学生、中学生の保護者ともにゆるやかに減少している。

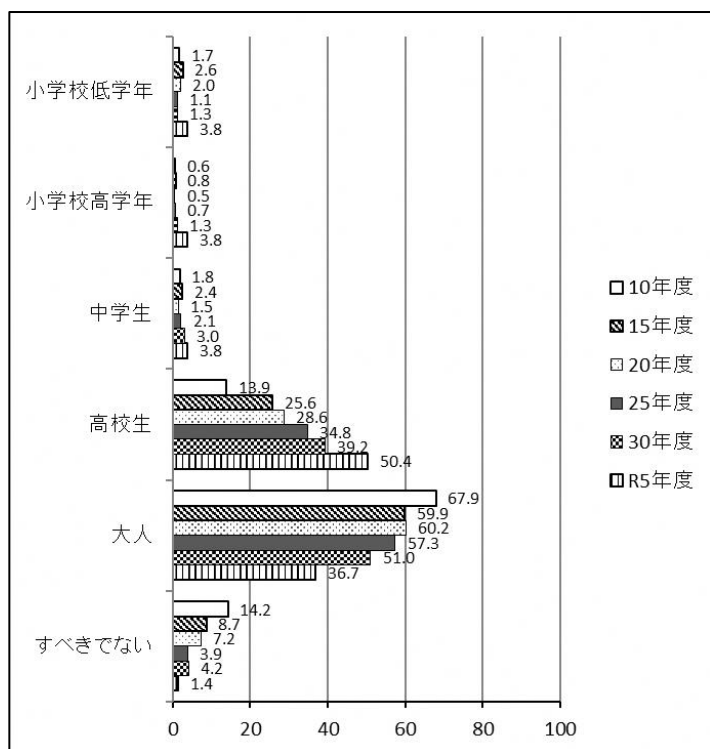
(9) あなたのお子さんが、次のことをしてもいいと思うのはいつ頃からですか。

(小学校低学年、小学校高学年、中学生、高校生、大人、そうすべきでないから選択)

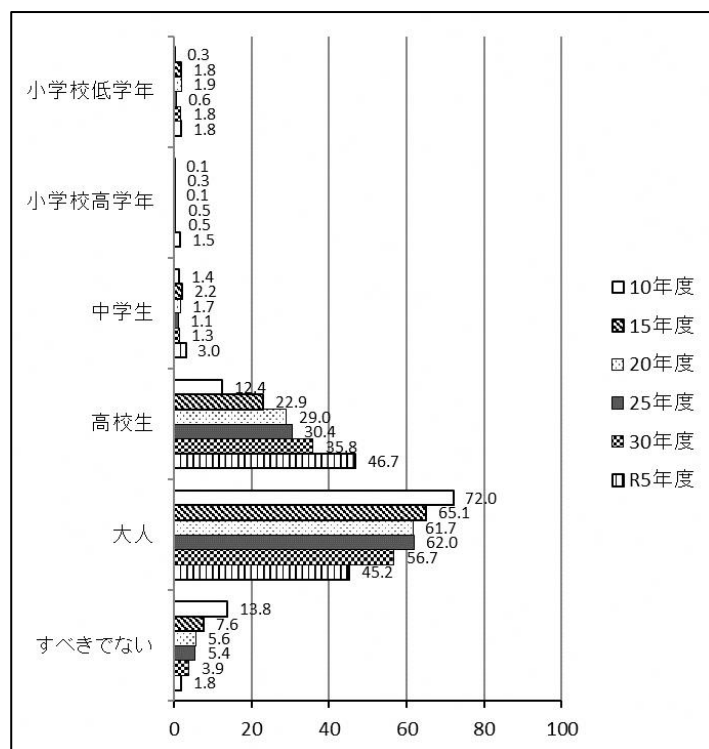
A 髪を染める B ピアスをする C お化粧をする D スマートフォン・携帯電話を持つ

※～平成20年度まで「D 携帯電話を持つ」

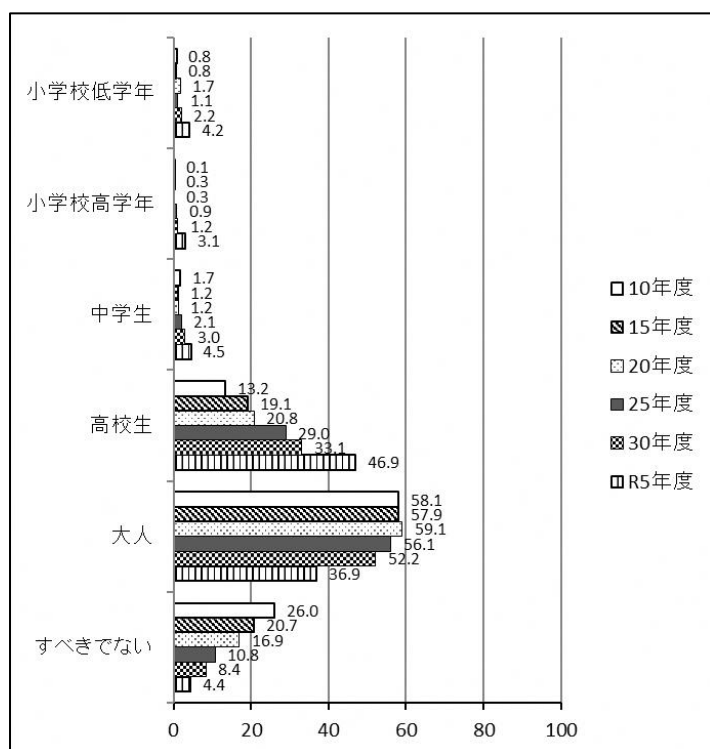
(9) A 髪を染める (小学生保護者)



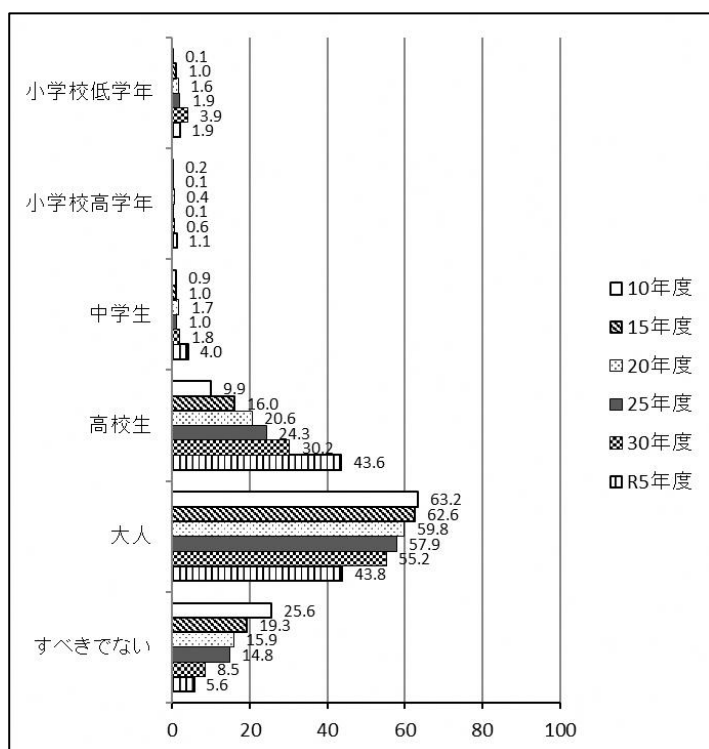
(9) A 髪を染める (中学生保護者)



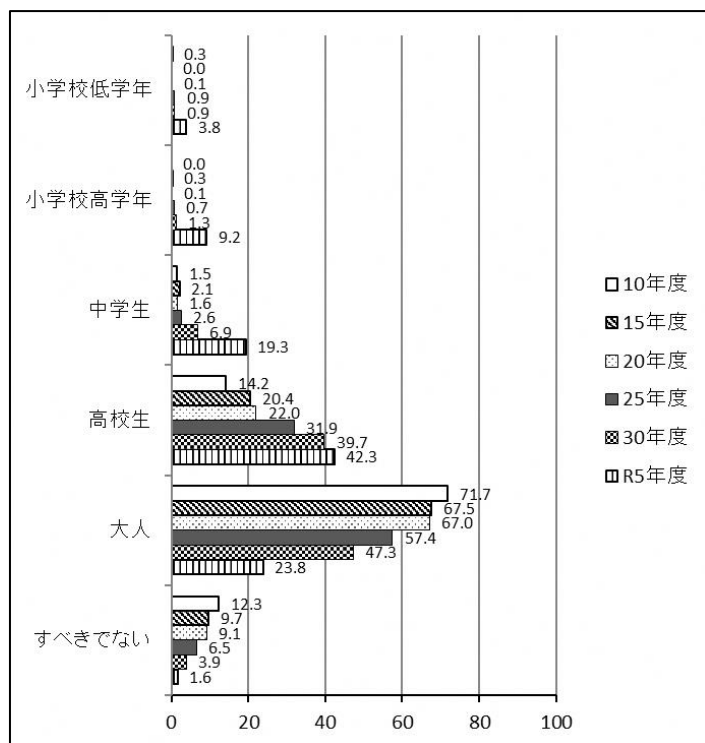
(9) B ピアスをする (小学生保護者)



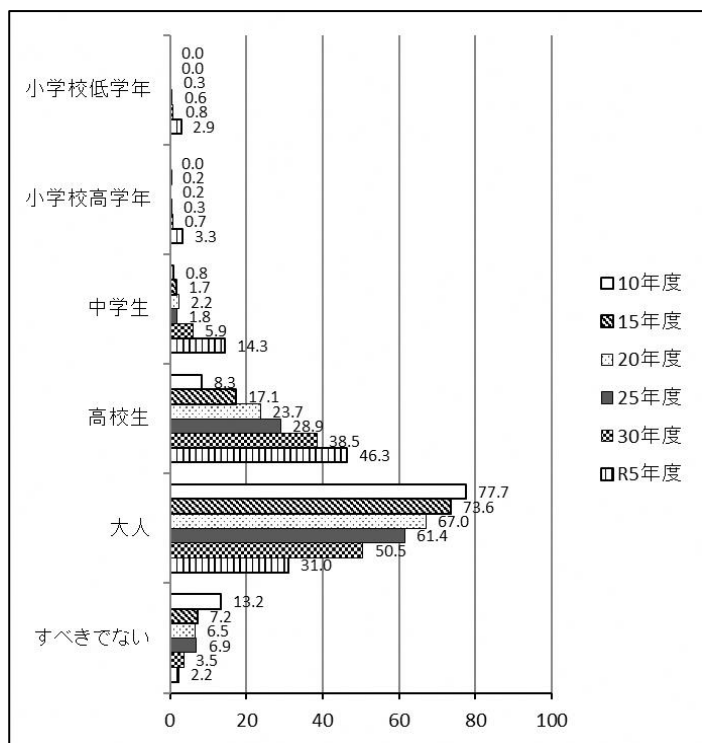
(9) B ピアスをする (中学生保護者)



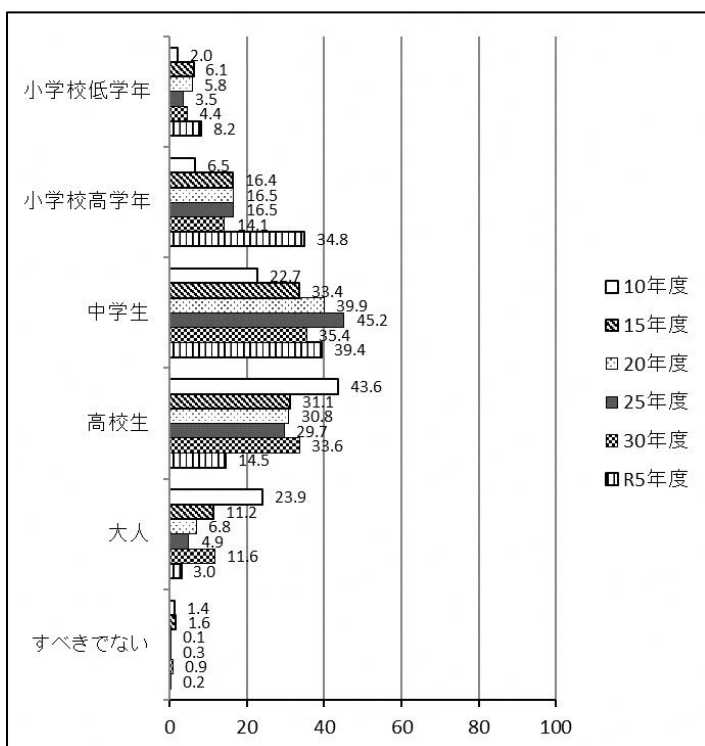
(9) C 化粧をする（小学生保護者）



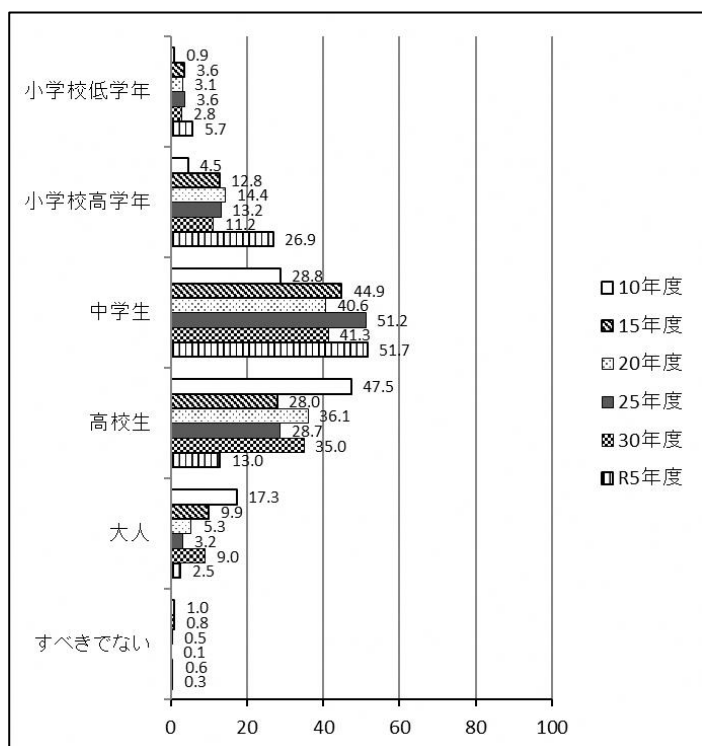
(9) C 化粧をする（中学生保護者）



(9) D スマートフォン・携帯電話をもつ（小学生保護者）



(9) D スマートフォン・携帯電話をもつ（中学生保護者）



＜令和5年度の結果＞

小学生、中学生の保護者ともに、「髪を染めてもいい」「ピアスをしてもいい」「化粧をしてもいい」と思うのは、「高校生」と回答している割合が最も高い。

スマートフォン・携帯電話については、小学生、中学生の保護者ともに、「持ってもいい」と思うのは、「中学生」と回答している割合が最も高い。(*)「小学生高学年」という割合が小学生、中学生の保護者ともに、増加した。

＜平成10年度から令和5年度を通しての変化＞

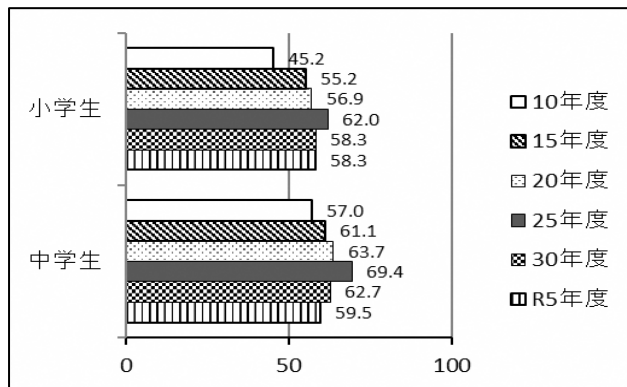
「髪を染める」「ピアスをする」「化粧をする」については、小学生、中学生の保護者とも、許可する年齢が低年齢化してきている。

④子育ての悩みや実感

(19) あなたは、今、お子さんについて何か悩みがありますか。

1. ある 2. ない

(19) 子どもについて悩みがある



＜令和5年度の結果＞

小学生、中学生の保護者ともに、子どもについて悩みが「ある」と回答している割合が、6割弱であった。

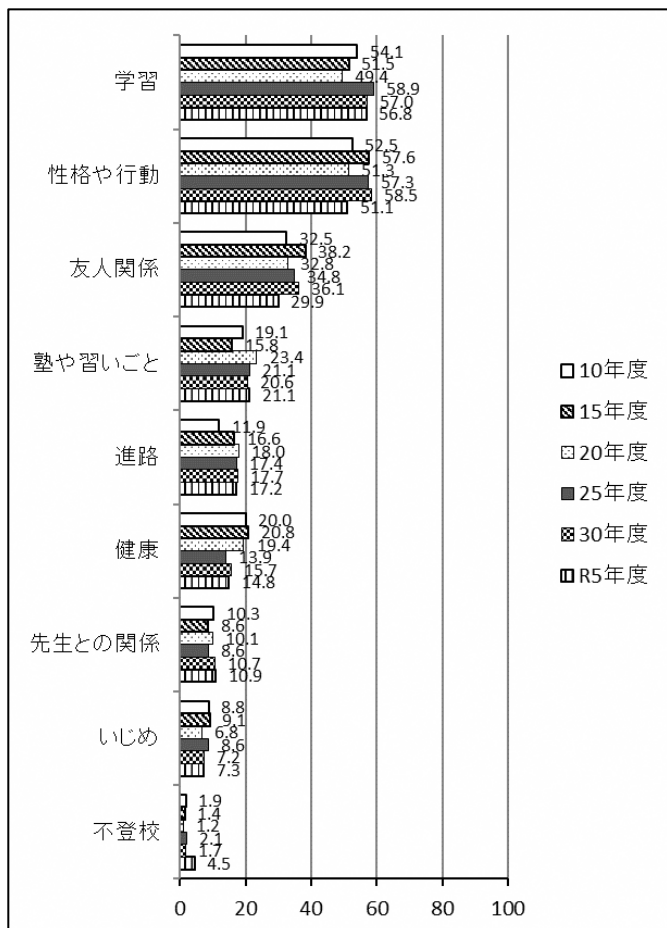
＜平成10年度から令和5年度を通しての変化＞

小学生、中学生の保護者ともに、子どもについて悩みが「ある」と回答している割合が平成25年度までは年々増加していたが、平成30年度以降は減少傾向である。(*)

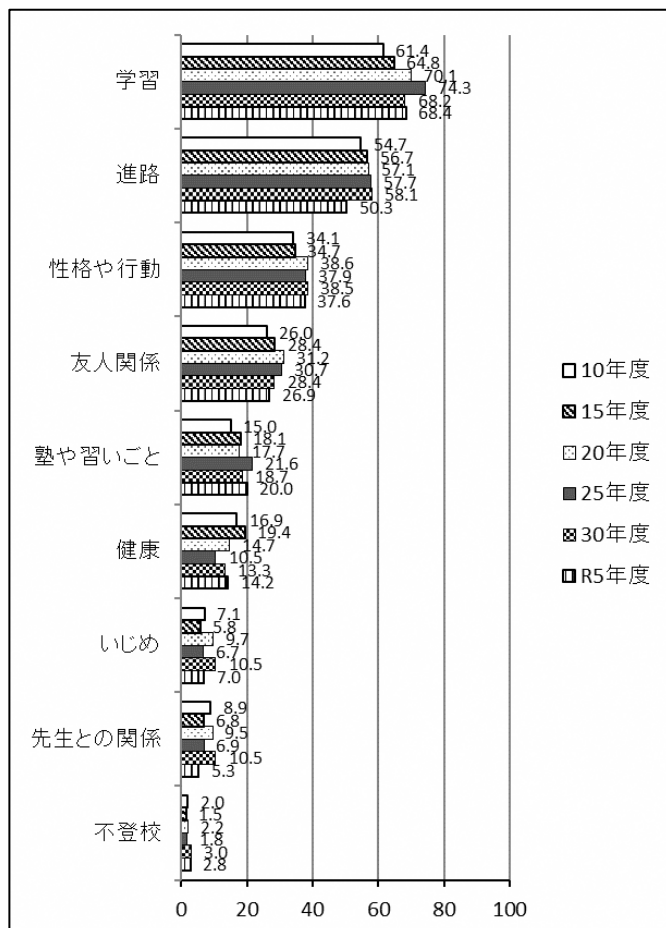
(20) どんな悩みがありますか。(いくつでも)

1. 学習について 4. 性格や行動について 7. いじめについて
2. 進路について 5. 友人関係について 8. 不登校について
3. 塾や習いごとについて 6. 健康について 9. 先生との関係について

(20) どんな悩みか（小学生保護者）



(20) どんな悩みか（中学生保護者）



<令和5年度の結果>

悩みの内容については、小学生の保護者では、「学習について」が5割半ば、「性格や行動について」が5割強である。次いで「友人関係について」が3割弱、その後「塾や習いごとについて」「進路について」が続く。

一方、中学生の保護者では、「学習について」が最も高く、7割弱である。次いで「進路について」が約5割、「性格や行動について」「友人関係について」が続く。

「塾や習いごとについて」は、小学生、中学生の保護者ともに、2割程度である。

<平成10年度から令和5年度を通しての変化>

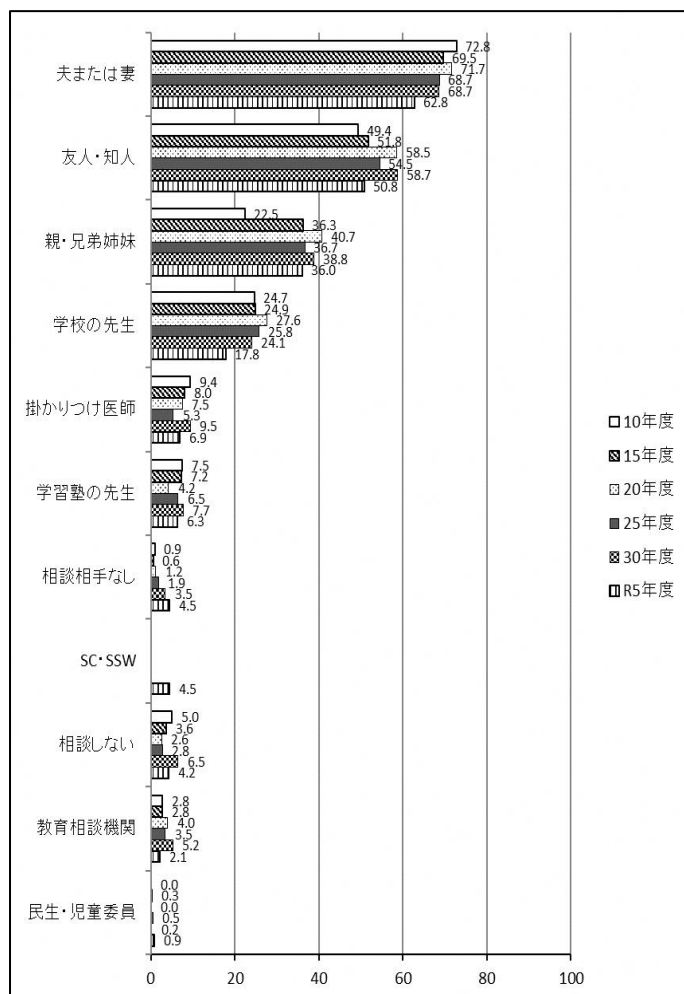
小学生の保護者では、「不登校について」の悩みが平成30年度の調査よりも増加している。

中学生の保護者では、「先生との関係について」の割合が平成30年度の調査よりも減少した。

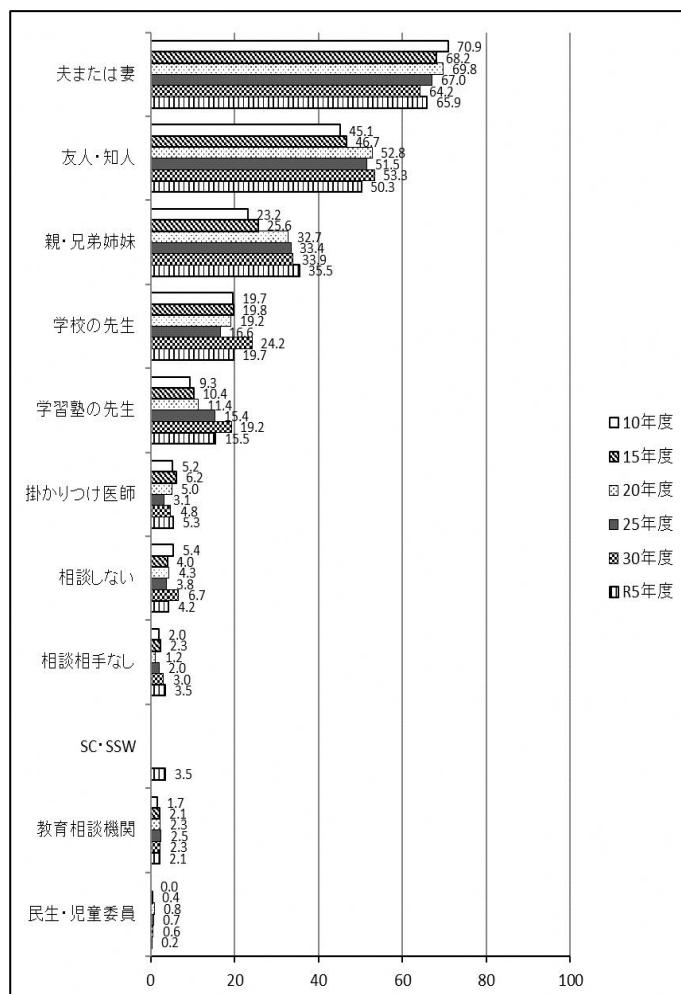
(21) その悩みをだれに相談していますか。(いくつでも)

- | | |
|-------------|------------------------|
| 1. 夫または妻 | 7. 教育相談機関（電話相談を含む） |
| 2. 親・兄弟姉妹 | 8. 学習塾などの先生 |
| 3. 友人・知人 | 9. SCやSSW |
| 4. かかりつけの医師 | 10. 相談相手がない |
| 5. 民生・児童委員 | 11. だれにも相談しない（自力で解決する） |
| 6. 学校の先生 | |

(21) 悩みの相談相手（小学生保護者）



(21) 悩みの相談相手（中学生保護者）



＜令和５年度の結果＞

悩みの相談相手については、小学生、中学生の保護者ともに「夫や妻」が最も高い。次いで、「友人・知人」「親・兄弟姉妹」の順で高い割合となっている。

「学校の先生」については、小学生、中学生の保護者ともに、２割弱である。

令和５年度より新規項目として加えた「ＳＣやＳＳＷ」は、小学生の保護者で４．５％、中学生の保護者で３．５％であった。

※ＳＣ→スクールカウンセラーの略

※ＳＳＷ→スクールソーシャルワーカーの略

＜平成１０年度から令和５年度を通しての変化＞

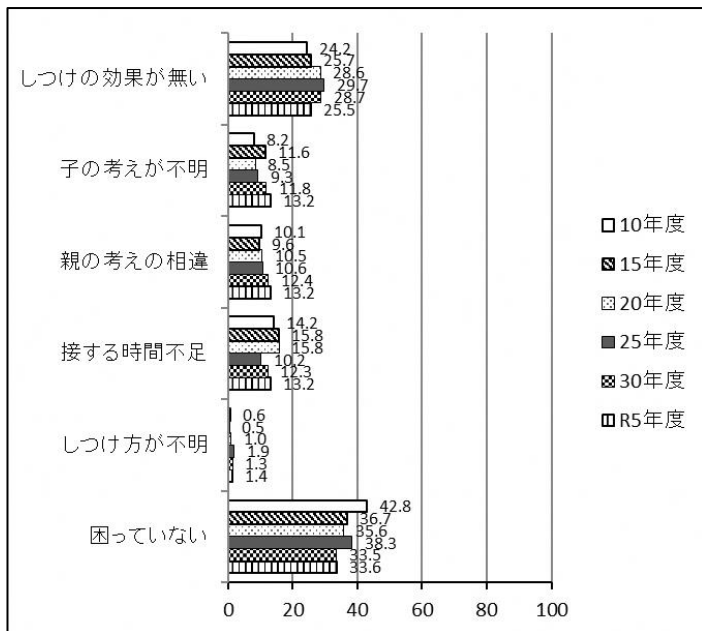
中学生の保護者における悩みの相談相手では、「夫または妻」が最も高い割合を示している。

小学生の保護者では「相談相手」なしが調査開始以降、年々増加している。

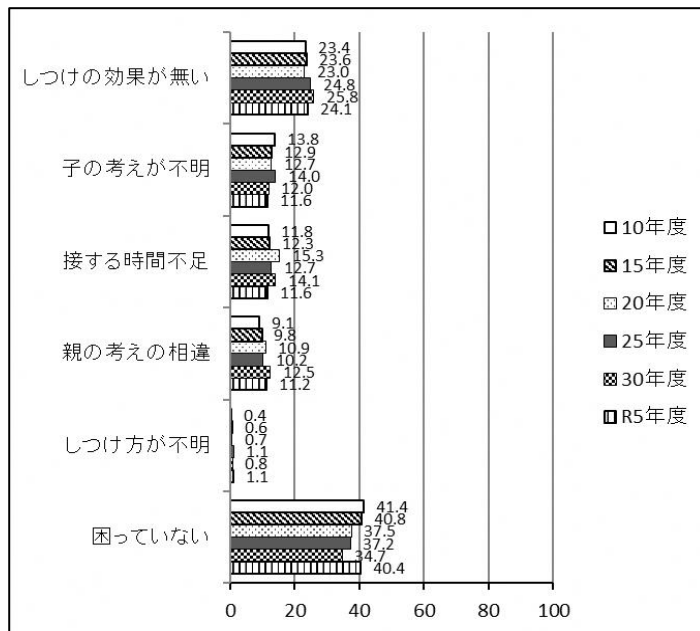
(25) あなたは、お子さんのしつけで、特にどんなことで困っていますか。

- | | |
|------------------|------------------|
| 1. 子どもの考え方がわからない | 4. しつけがまったくわからない |
| 2. 父親と母親の考え方が違う | 5. しつけても効果があがらない |
| 3. 子どもに接する時間が少ない | 6. 困っていない |

(25) しつけで困ること（小学生保護者）



(25) しつけで困ること（中学生保護者）



<令和5年度の結果>

小学生、中学生の保護者ともに、「困っていない」が3割～4割程度で最も高い。また、困っていることとして、「しつけても効果があがらない」と回答している小学生、中学生の保護者ともに2割半ばであった。

<平成10年度から令和5年度を通しての変化>

小学生、中学生の保護者ともに「困っていない」の割合が最も高い。 (*)

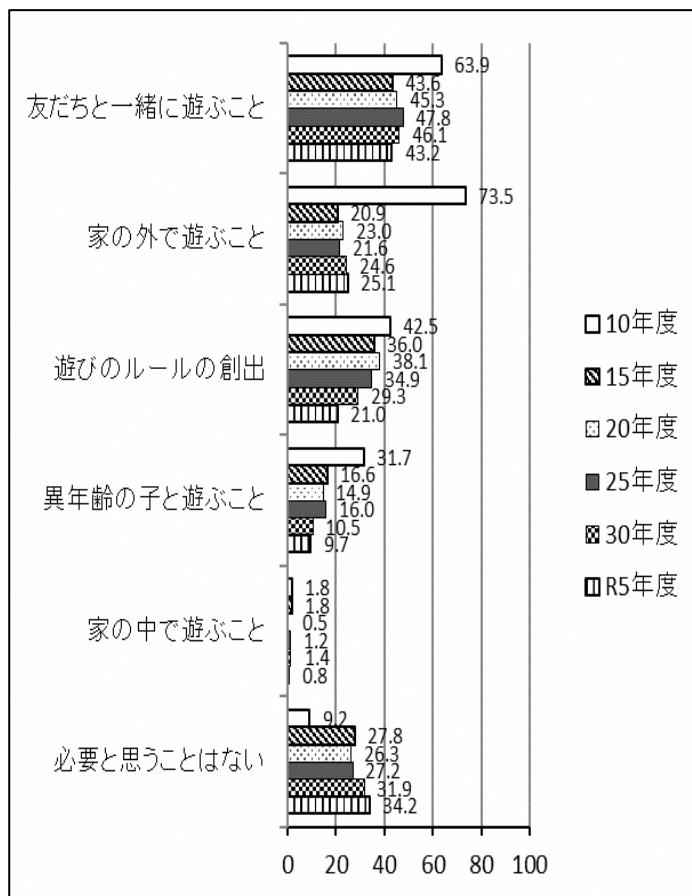
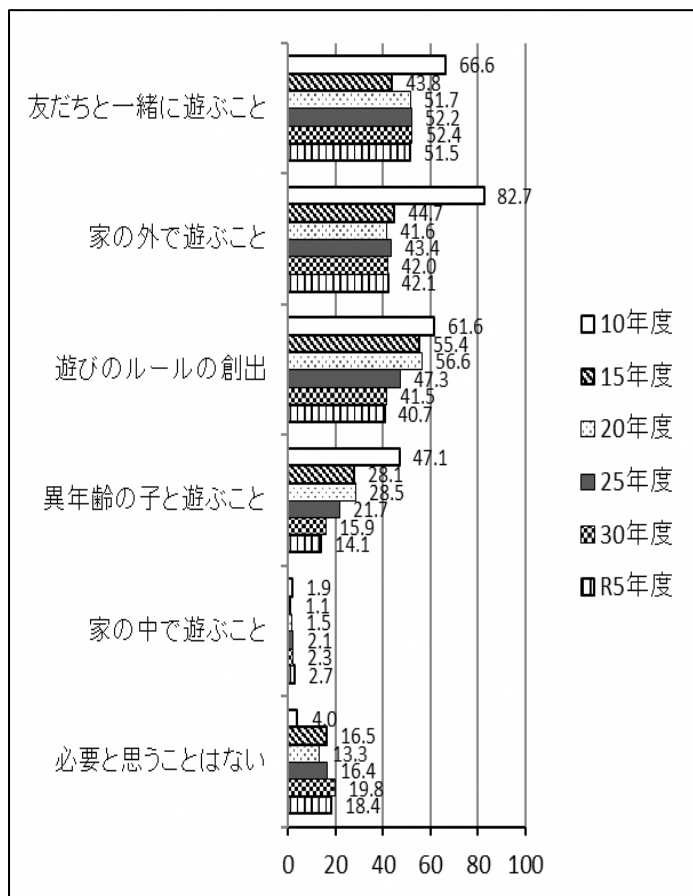
それぞれの選択肢の項目を見ても、小学生、中学生ともに大きな変化は見られない。

(26) あなたは、お子さんの遊びに関して、もっと必要だと思うことがありますか。

- | | |
|------------------|--------------------------|
| 1. 友だちと一緒に遊ぶこと | 4. 家の中で遊ぶこと |
| 2. 違う年齢の子どもと遊ぶこと | 5. 自分たちで遊びや遊びのルールを考えだすこと |
| 3. 家の外で遊ぶこと | 6. 必要だと思うことは特にな |

(26) 遊びに必要なこと（小学生保護者）

(26) 遊びに必要なこと（中学生保護者）



<令和5年度の結果>

小学生、中学生の保護者では、「友だちと一緒に遊ぶこと」が最も高く、小学生の保護者で5割強、中学生の保護者で4割強であった。次に、「家の外で遊ぶ」「自分たちで遊びやルールを考え出すこと」が続いている。

<平成10年度から令和5年度を通しての変化>

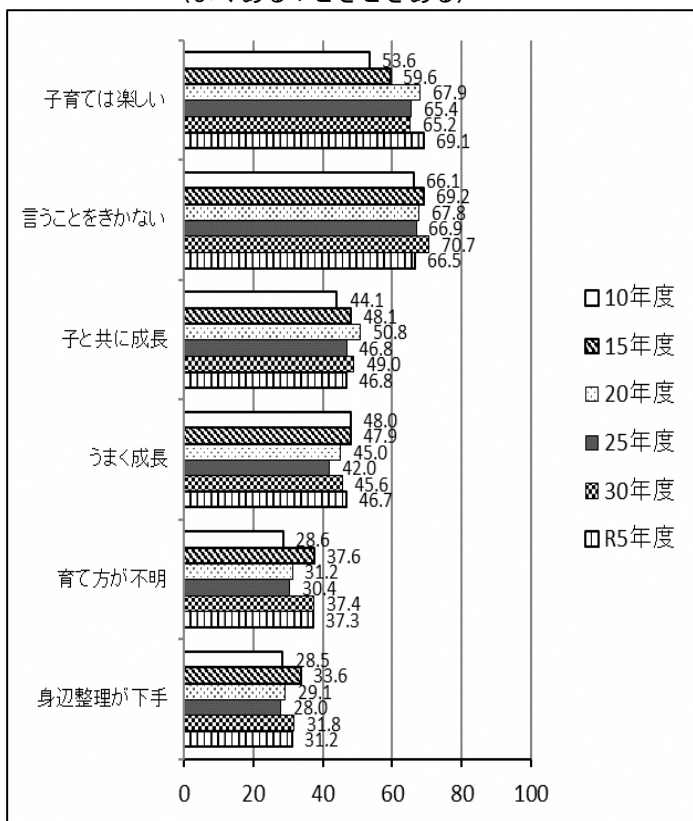
小学生、中学生の保護者ともに、「遊びのルールの創出」「異年齢の中で遊ぶこと」が減少傾向にある。

(30) あなたは、お子さんのことに関連して、次のように感じることはありますか。
(よくある、ときどきある、どちらともいえない、あまりない、まったくないから選択)

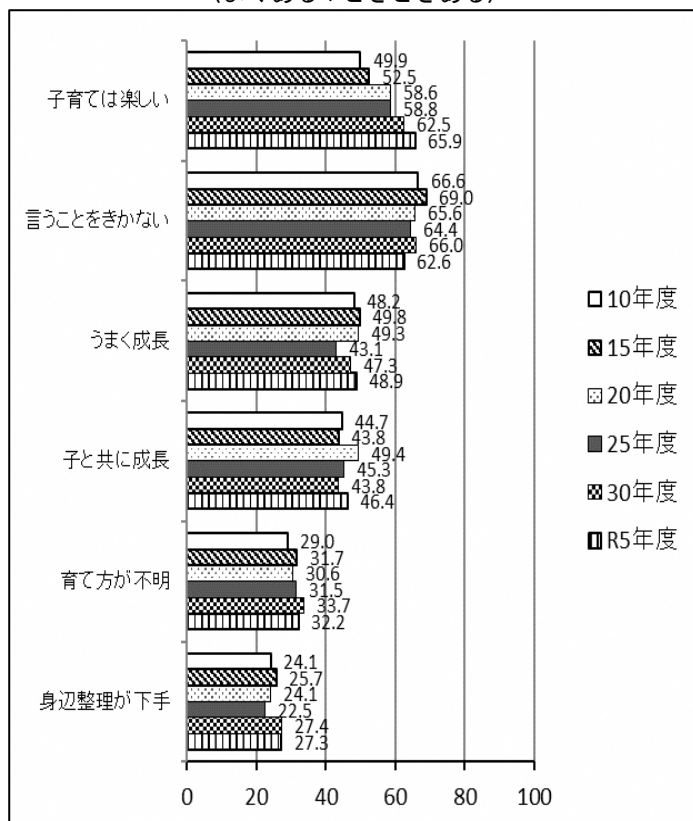
1. 最近子どもが自分の言うことをきかなくなってきた
2. 子どもの成長とともに自分も成長している
3. 自分の子どもは、けっこううまく育っている
4. 子どもの身のまわりのことを、子ども自身にまかせられない
5. 子どものことで、どうしたらよいかわからなくなる
6. 子育ては楽しいと感じる

※グラフは、「よくある」「ときどきある」を合わせたもの

(30) 次を感じることはあるか (小学生保護者)
〈よくある+ときどきある〉



(30) 次を感じることはあるか (中学生保護者)
〈よくある+ときどきある〉



＜令和5年度の結果＞

小学生、中学生の保護者ともに「よくある」「ときどきある」の割合が最も高いのは、「子育ては楽しい」で、6割半ば～7割弱である。

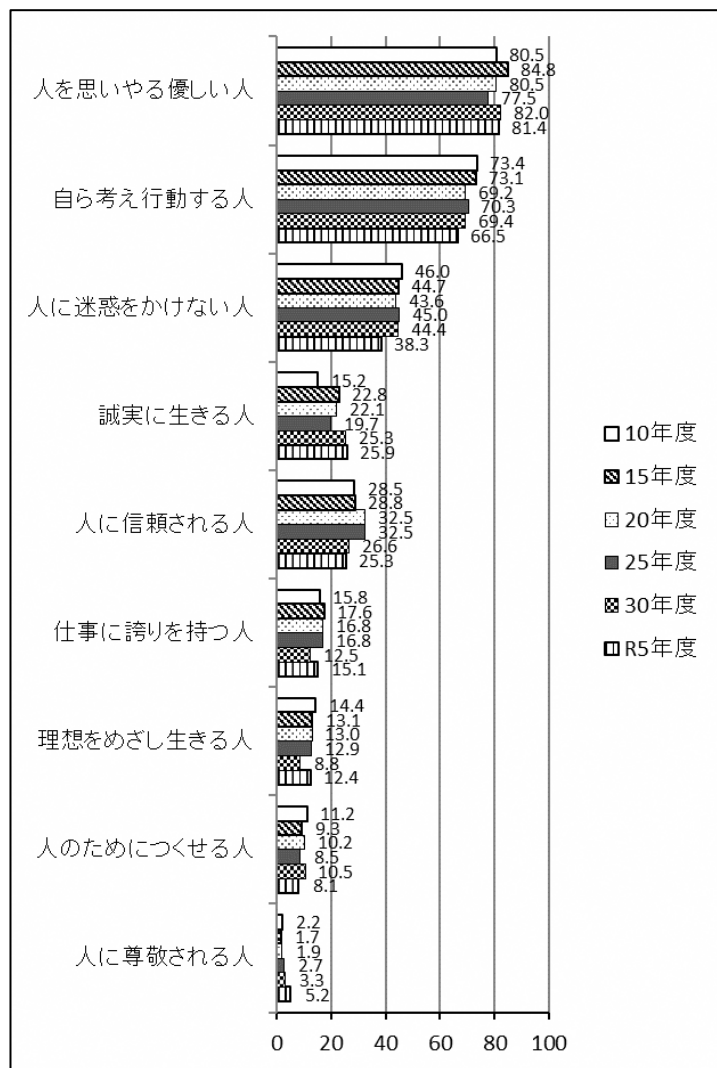
＜平成10年度から令和5年度を通しての変化＞

「子育ては楽しい」と感じている割合が小学生、中学生の保護者ともに、調査開始以来最も高い結果となった。また、「よくある」「ときどきある」の割合が最も高い「子育ては楽しい」という回答が「言うことをきかない」を初めて上回った。

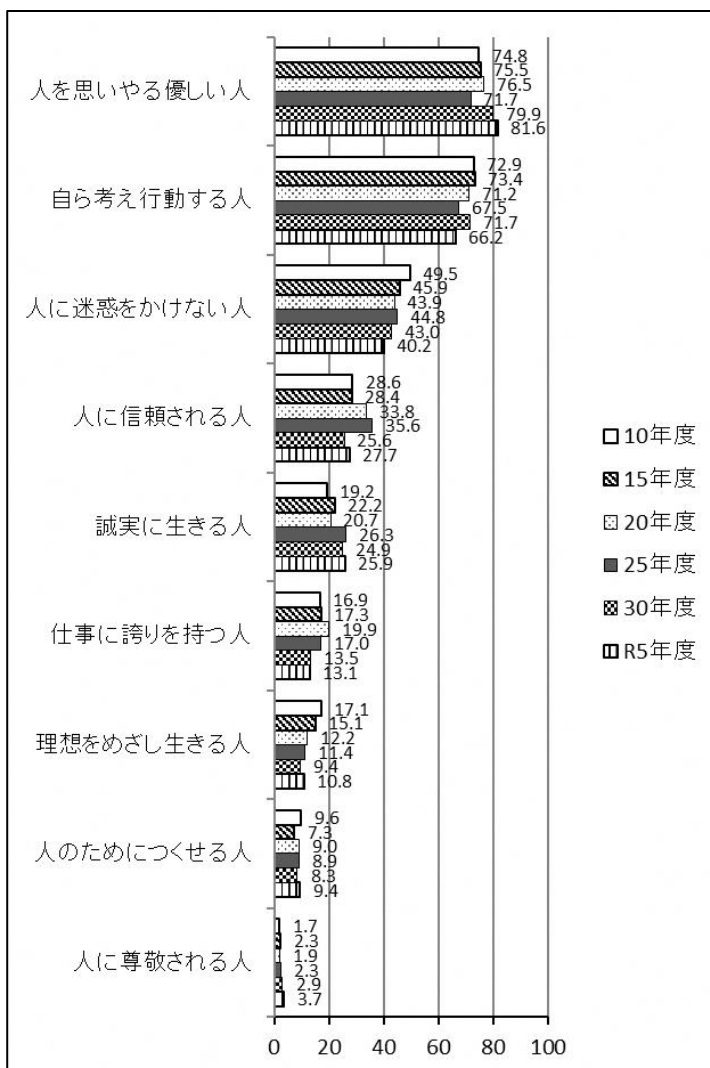
(31) あなたは、お子さんに将来どんな人になってほしいと思っていますか。(3つまで)

1. 思いやりや優しさのある人
2. 人に尊敬される人
3. 人に信頼される人
4. 人のためにつくせる人
5. 自分の理想に向かって生きる人
6. 誠実に生きる人
7. 自分の考えをしっかりとって行動する人
8. 人に迷惑をかけない人
9. 自分の仕事に誇りを持っている人

(31) どんな人になってほしいか（小学生保護者）



(31) どんな人になってほしいか（中学生保護者）



＜令和5年度の結果＞

小学生、中学生の保護者ともに、「人を思いやる優しい人」という回答が8割強と最も高い。次いで、「自ら考え行動する人」が高く、小学生、中学生の保護者ともに6割半ばである。

＜平成10年度から令和5年度を通しての変化＞

小学生、中学生の保護者ともに、「人を思いやる優しい人」「自ら考え行動する人」「人に迷惑をかけない人」が上位3項目である。

しかし、小学生、中学生の保護者ともに「自分の考えをしっかりとって行動する人」「人に迷惑をかけない人」は減少傾向にある。